

神経変性疾患と次世代創薬



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

2025.7.15 火 13:30-17:20

形式：会場(先着70名)／配信(zoomウェビナー)
ライフサイエンスハブウエスト

大阪府大阪市中央区備後町4-1-3 御堂筋三井ビルディング4階
大阪メトロ御堂筋線・中央線「本町」駅2番出口より徒歩1分



Google Map



認知症やがんのように加齢に伴い発症リスクが高まる疾患の治療は、高齢化が進むわが国において重要な社会的課題です。特にアルツハイマー病などの神経変性疾患は、疾患機序が複雑であり、病気の進行も緩徐なことから、創薬においてもさまざまな困難が伴います。近年、レカネマブなどの抗体医薬品が登場し、病気の進行を遅らせることは可能になってきましたが、根治をも視野に入れた新しい治療法への期待は依然として高いものがあります。

本シンポジウムでは、神経変性疾患に先端的なアプローチで取り組まれている先生方にご登壇いただき、次世代医薬品の創出につながる研究成果をご紹介します。

主催：大阪公立大学 研究推進機構 協創研究センター 創薬科学研究所 事務局：大阪公立大学 URAセンター
後援（予定）：大阪府、日本製薬工業協会、一般社団法人日本臨床検査薬協会、一般社団法人日本医療機器産業連合会、一般財団法人バイオインダストリー協会

13:30-13:40 開会挨拶

「シンポジウムキーノート」

乾 隆 (大阪公立大学大学院農学研究科 教授
／創薬科学研究所 所長)



15:00-15:35

「神経変性疾患の治療法 とバイオマーカーの開発」

武内 敏秀 (近畿大学ライフサイエンス研究所 准教授)



13:40-14:15

「iPS細胞由来血液脳関門モデル を用いた神経疾患の病態解明と 創薬へのアプローチ」

西原 秀昭 (山口大学大学院医学系研究科臨床神経学講座 助教)



15:35-16:10

「脳から腸までの多角的解析に よる神経変性疾患治療標的の 探索」

植松 未帆 (大阪公立大学大学院医学研究科ゲノム免疫学 助教)



14:15-14:50

「混合病理の相互作用から探る 認知症の新たな理解」

上村 麻衣子 (大阪公立大学大学院医学研究科
健康長寿医科学講座病因診断科学 講師)



16:10-16:30 全体質疑応答

16:30-16:35 閉会挨拶

重松 孝昌 (大阪公立大学 理事・副学長
／産学官民共創推進本部長)



16:40-17:20 ポスターセッション

大阪公立大学の創薬シーズをポスターにて紹介
関係研究者も多数参加予定
是非会場にてご参加ください



シンポジウム
詳細サイト

参加登録：https://www.omu.ac.jp/ura/contact/form_soyaku_11.html

参加申込期限：2025年7月10日[木](正午) 参加対象：どなたでも 参加費無料

※お申込みの際の個人情報、応募後の事務連絡、統計資料などの作成および本学イベント情報等のご案内に使用いたします。
利用目的以外の使用については、一切いたしません。

※開催前日までに、お申込み時に登録いただいたメールアドレス宛に事務局より視聴案内をお送りいたします。

※シンポジウムの進行時間は目安であり変更になる場合があります。